Mimikatz実行痕跡の発見手法



株式会社インターネットイニシアティブ セキュリティ本部 セキュリティ情報統括室 小林 稔

Ongoing Innovation

自己紹介

名前:小林 稔

所属: セキュリティ本部 セキュリティ情報統括室

2014年5月IIJ入社。

2015年8月より社会保障審議会年金事業管理部会運営担当参与。

Mauritius 2016 FIRST Technical Colloquium スピーカーおよびトレーニング講師。

2017年セキュリティキャンプ全国大会講師。

今日の内容

- 1. Mimikatzとは
- 2. Mimikatz実行痕跡の発見方法(デフォルト設定)
- 3. Mimikatz実行痕跡の発見方法(追加設定)
- 4. 検出のスクリプト化
- 5. まとめ



Mimikatzとは

作者曰く…

mimikatz is a tool I've made to learn C and make somes experiments with Windows security.

実際のところは…

Windowsのメモリ上に保持されているアカウントの認証情報にアクセスし、管理者権限の取得や他のアカウントのなりすましを行うためのツール。

- Twitter
 - https://twitter.com/gentilkiwi
- Github
 - https://github.com/gentilkiwi/mimikatz

Mimikatzの実行痕跡を調査する意味

標的型攻撃でシステム内の横展開やGolden TicketやSilver Ticketによるなりすましのために頻繁に使用される。なお、Mimikatzを使用するためには管理者権限やSYSTEM権限が実質的に必要となるため、最低1台は特権が取られえていると考えた方が良い。

また、作者の対応スピードが早く、以前はMimikatz発見に使えたインジケータが現在は使えないこともある。このような情報を再整理しアップデートすることでインシデントレスポンスの品質向上を図ることができる。

Mimikatzの実装形態

- EXE版
 - 32bit
 - 64bit
- DLL版
 - 32bit
 - 64bit
- PowerShell版
 - ファイルレスで実行可能
- 重要な機能の実行には管理者権限またはSYSTEM権限が 必要

Mimikatzでできること

- 認証情報ダンプ
 - プレーンパスワード
 - NTLMハッシュ
 - Kerberos Ticket Export
- Pass-the-Hash
- Pass-the-Ticket
- Golden Ticket/Silver Ticket生成
- DCSync
- Skeleton Key
- などなど

Mimikatzを実行した痕跡の発見方法 (デフォルト設定)

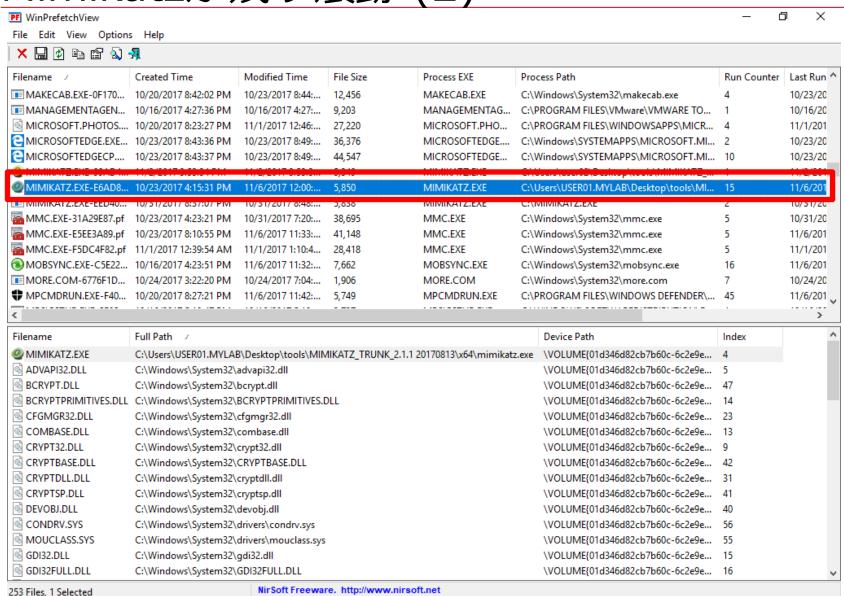
検証環境

- 今回の検証環境
- Windows Server 2016
 - Active Directoryサーバ
 - ドメイン名: mylab.local
 - グループポリシーはデフォルトのまま
- Windows 10 Pro 1703
 - ドメイン参加
- Mimikatzが残す特徴的なログやファイルを探す。
- 多くの場合において、攻撃検出のための特別な設定は行われていないため、デフォルト設定で残る情報から実行痕跡を探し出す。

Mimikatzが残す痕跡 (1)

- OSに残る痕跡
 - Prefetch
 - クライアント系Windowsのみ
 - 実行日時と実行回数が分かる
 - Shimcache
 - Amcache
- 実行されたことは分かるが起動時のオプション等は分からない。
- ファイル名が変更された場合Mimikatzと判断できない。

Mimikatzが残す痕跡 (2)



 \blacksquare













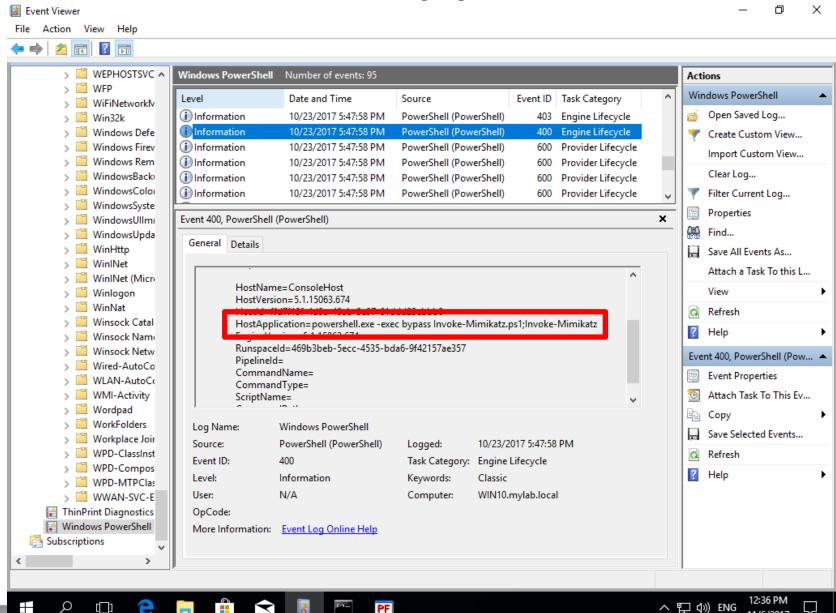




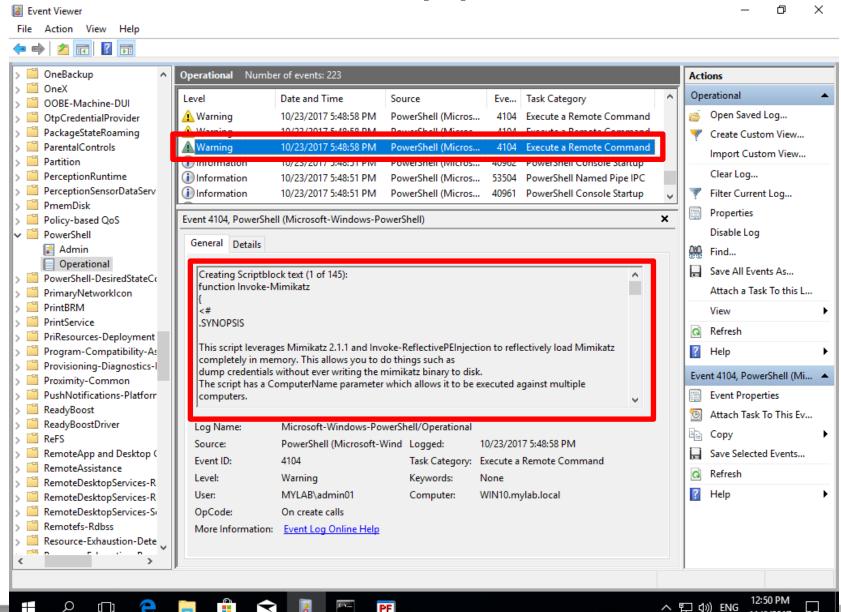
Mimikatzが残す痕跡 (3)

- PowerShell版Mimikatzの実行痕跡はPowerShell関連のイベントログに残る。
 - Windows PowerShell.evtx
 - Microsoft-Windows-PowerShell%4Operational.evtx
 - 起動時の引数やスクリプトブロックの内容は記録されるが、 インタラクティブにどのような操作が行われたのか分からない。
- Mimikatzの操作に関連する痕跡はセキュリティイベントログに残る(EXE版、DLL版、PowerShell版共通)。
 - Security.evtx
- 今回はセキュリティイベントログを中心に解説する。

Mimikatzが残す痕跡 (4)



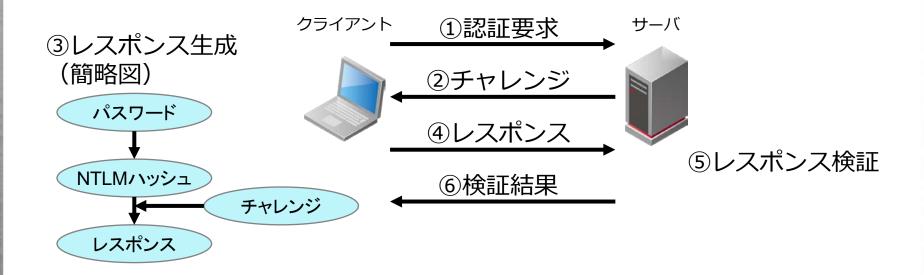
Mimikatzが残す痕跡 (5)



Pass-the-Hash Pass-the-Ticket

Windowsの認証方式 (1)

- NTLMv2認証
- チャレンジ・レスポンス方式



Windowsの認証方式 (2)

- Kerberos認証:ドメイン環境の認証方式
- 2種類のチケットを使って認証や認可を行う
- ①Ticket-Granting Ticket (TGT)要求:イベントID:4768

②TGTを発行(ユーザ権限などの情報はkrbtgtアカウントの ドメインコントローラ NTLMハッシュで暗号化)

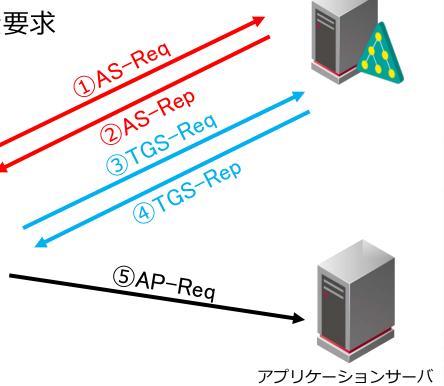
③利用するサービスのService Ticketを要求 (TGTも送る):イベントID:4769

④Service Ticket (ST)を発行 (サービスアカウントのNTLM ハッシュで暗号化)

⑤サービスにアクセス(STも送る) : イベントID:4624, 4672

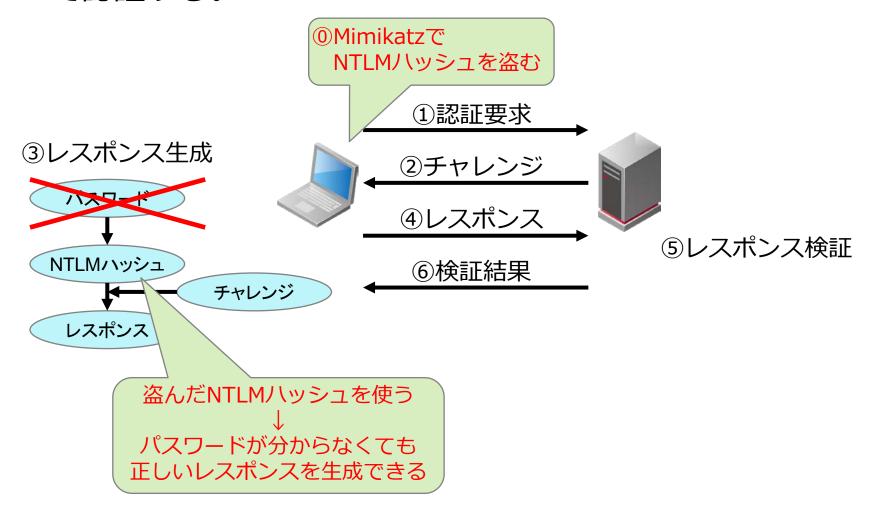
クライアント

※TGTとService Ticketの有効期限は デフォルトで10時間



Pass-the-Hash (1)

• パスワードを入力せずに盗んだNTLMハッシュを利用して認証する。

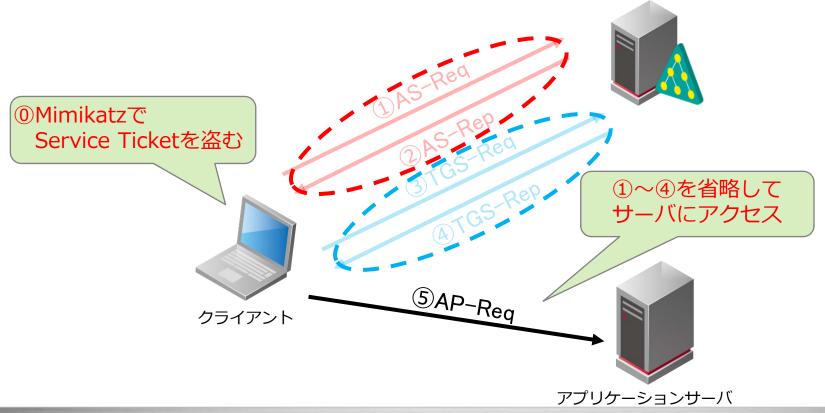


Pass-the-Hash (2)

- 検出方法:以下のログが記録される。
- イベントID: 4776: NTLM資格情報の確認
- イベントID: 4624: ログオン成功
 - ログオンタイプ:3
 - ログオンプロセス: NtLMSsp
 - 認証パッケージ:NTLM
 - パッケージ名 (NTLM のみ): NTLM V2
- ドメイン環境では認証のほとんどはKerberos認証で行われるため、NTLM認証のログは注意すべき対象となる。

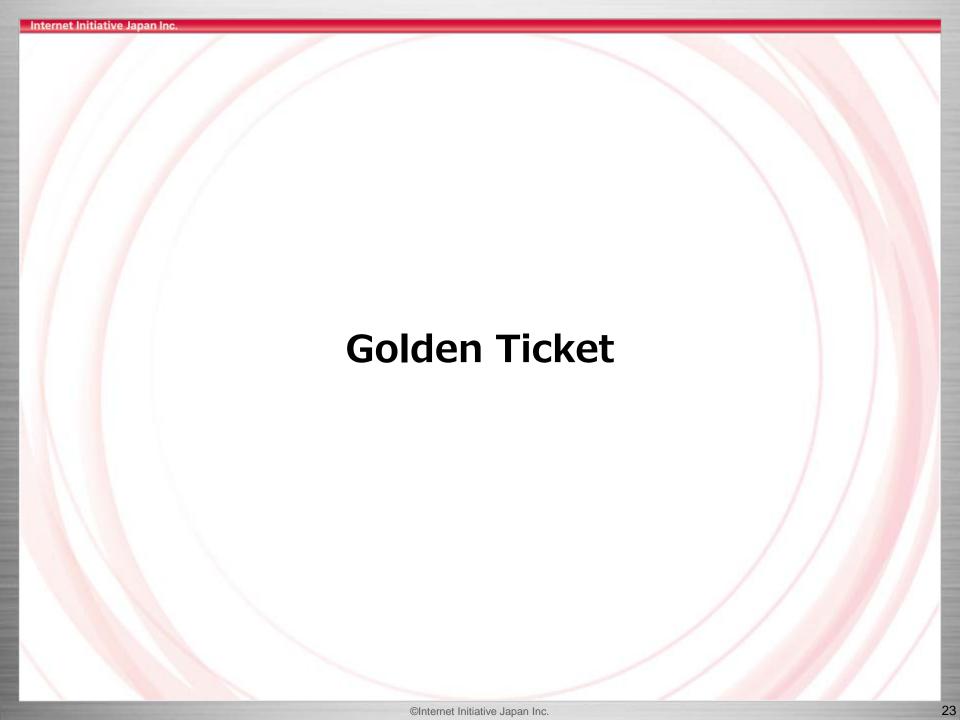
Pass-the-Ticket (1)

- Pass-the-Hashと同様に、パスワードを入力せずに盗ん だまたは偽造したKerberos Ticketを利用する。
- 例)ファイルサーバ向けのService Ticketを入手した場合、①~④の処理を行わずにTicketのユーザ権限でファイルサーバのファイルにアクセスすることができる。



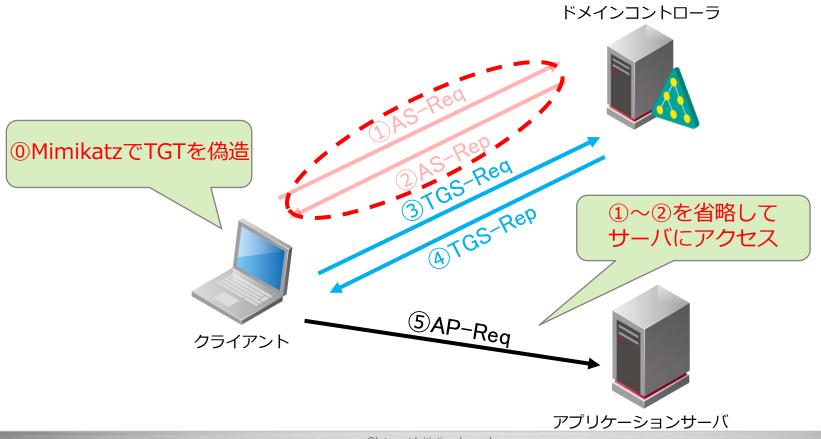
Pass-the-Ticket (2)

多くの場合、Pass-the-Ticketの手法で使用するチケットはGolden TicketやSilver Ticketであるため、検出方法の詳細はそれぞれの項目で記述する。



Golden Ticket (1)

 偽造したTGTを送信して、Service Ticketを入手し、 サービスにアクセスする攻撃手法。多くの場合、 Domain Admins権限を持つようにTGTを偽造するので、 任意のサービスにアクセス可能となる。



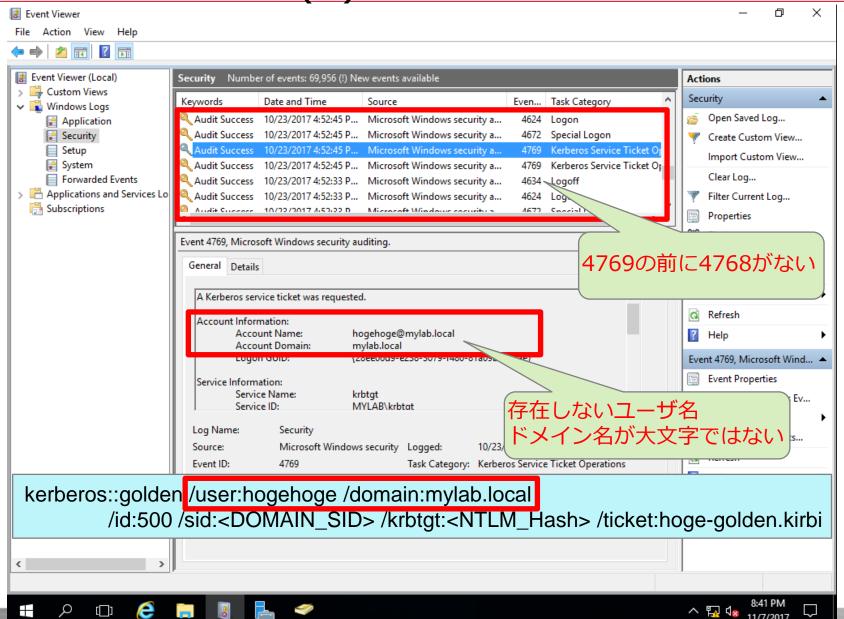
Golden Ticket (2)

- 偽造したTGTをドメインコントローラに送信して Service Ticketを発行させ、サービスを利用する。
- Golden Ticket作成に必要な情報
 - ドメイン名
 - ドメインSID
 - ドメインのkrbtgtアカウントのNTLMパスワードハッシュ
 - なりすましを行うユーザSID(とグループSID)
- Mimikatzで偽造したTGTの特徴
 - 有効期限:10年(Mimikatzデフォルト)
 - 任意のアカウント名(ドメイン内に存在しなくてもよい)

Golden Ticket (3)

- 検出方法:通常のKerberos認証で記録されるべきログ が記録されない。
- Golden Ticket使用時に記録されないイベントID
 - イベントID: 4768: TGT要求
- 4769のログから10時間前までの間に4768が記録されていない場合、Golden Ticketが使われた可能性がある。
- 以下の特徴を持つ4769が記録される場合がある。
 - 「アカウント名」に存在しないユーザ名が入る。
 - 「アカウントドメイン」がすべて大文字になっていない。
- 誤検知となる要因
 - ログローテーションで4768のログが削除されてしまっている場合がある。
 - 通常の使い方をしていても、4768が記録されない場合がある。

Golden Ticket (4)

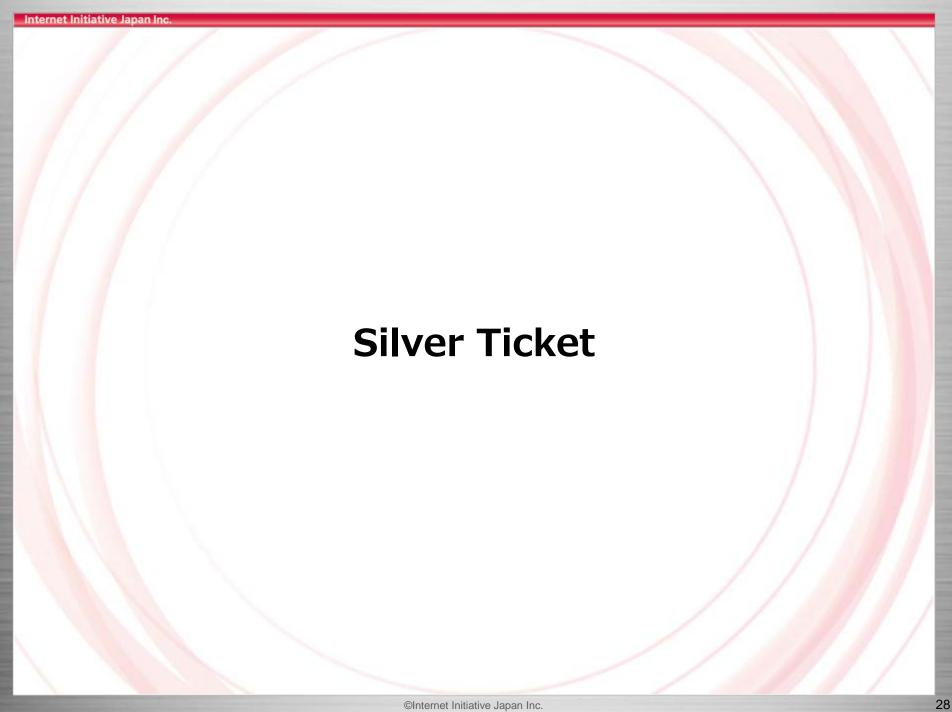






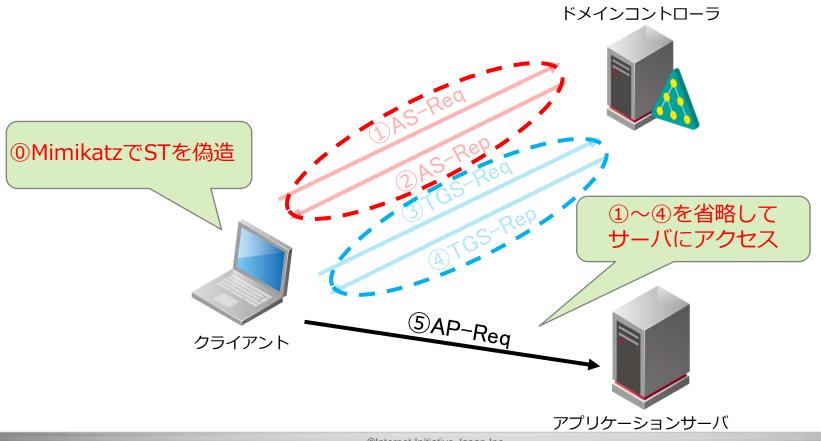






Silver Ticket (1)

偽造したService Ticketを送信して、サービスにアクセスする。多くの場合、Domain Admins権限を持つようにService Ticketを偽造するので、任意のサービスにアクセス可能となる。



Silver Ticket (2)

- 偽造したService Ticketを使用してサービスを利用する。
- Silver Ticket作成に必要な情報
 - ドメイン名
 - ドメインSID
 - アプリケーションサーバのFQDN
 - サービスのNTLMハッシュ
 - なりすましを行うユーザSID(とグループSID)
 - サービス名(SPN)
- Mimikatzで偽造したService Ticketの特徴
 - 有効期限:10年(Mimikatzデフォルト)
 - 任意のアカウント名(ドメイン内に存在しなくてもよい)

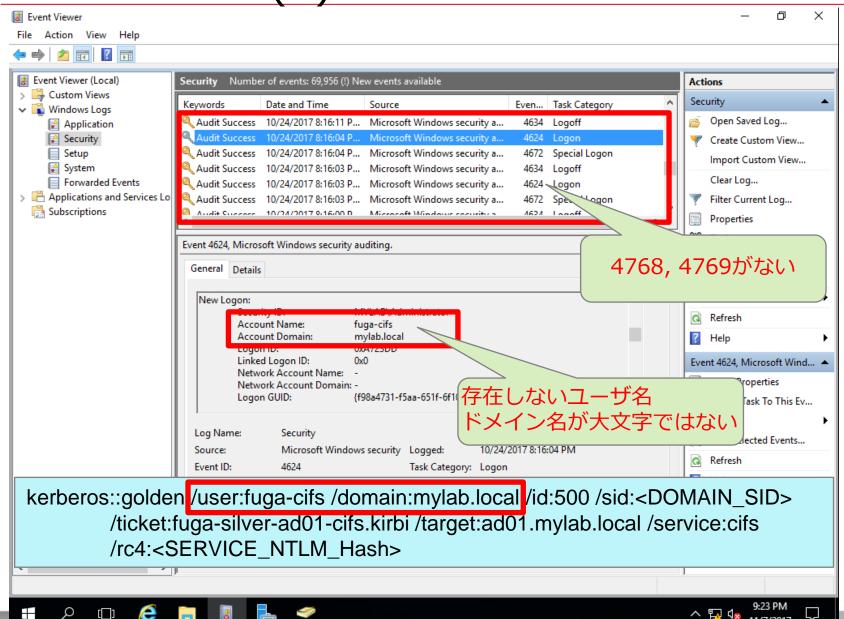
Silver Ticket (3)

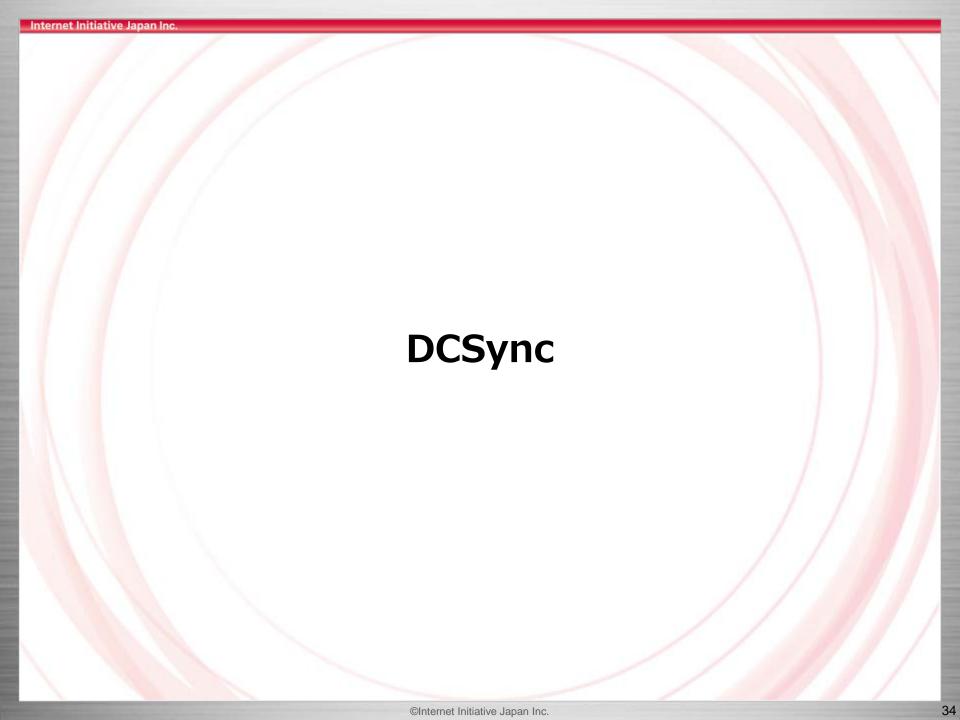
- 検出方法:通常のKerberos認証で記録されるべきログ が記録されない。
- Silver Ticket使用時に記録されないイベントID
 - イベントID: 4768: TGT要求
 - イベントID: 4769: Service Ticketの要求
- 以下の条件を満たす場合、Silver Ticketが使われた可能性がある。
 - イベントID:4624(ログオン成功)から10時間前までの間に 4769が記録されていない。
 - 4769のログから10時間前までの間に4768が記録されていない。

Silver Ticket (4)

- 誤検知となる要因
 - ログローテーションで4768,4769のログが削除されてしまっている場合がある。
 - 通常の使い方をしていても、4768, 4769が記録されない場合がある。

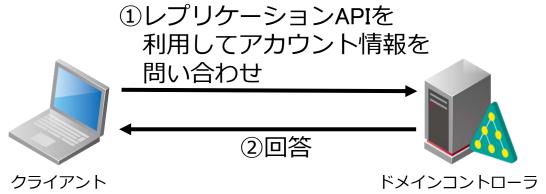
Silver Ticket (5)





DCSync (1)

- ドメインコントローラのレプリケーションAPIを使用して、任意のActive Directoryアカウントの情報をネットワーク経由で問い合わせる。
- ドメインコントローラを複数台で構成する場合に使用されるAPI。
- Mimikatzはドメインコントローラ上で動作する必要はない。



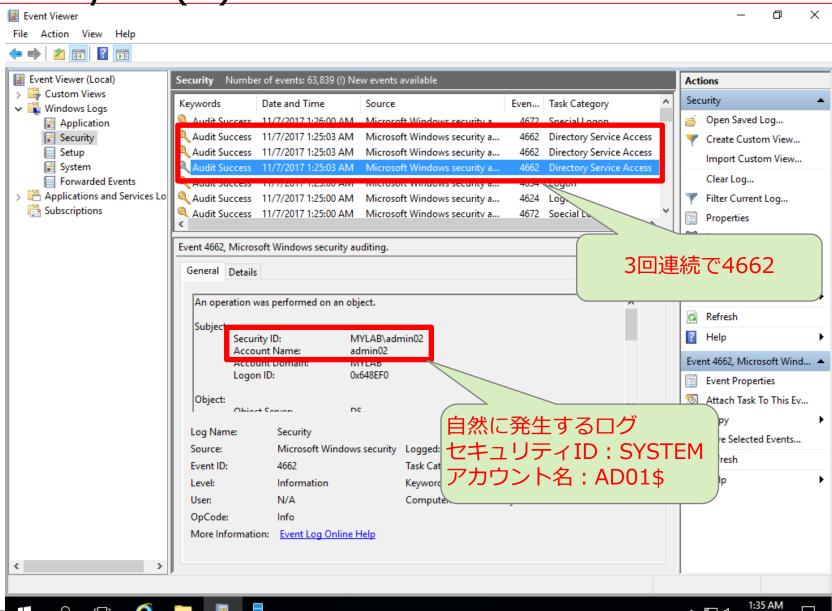
DCSync (2)

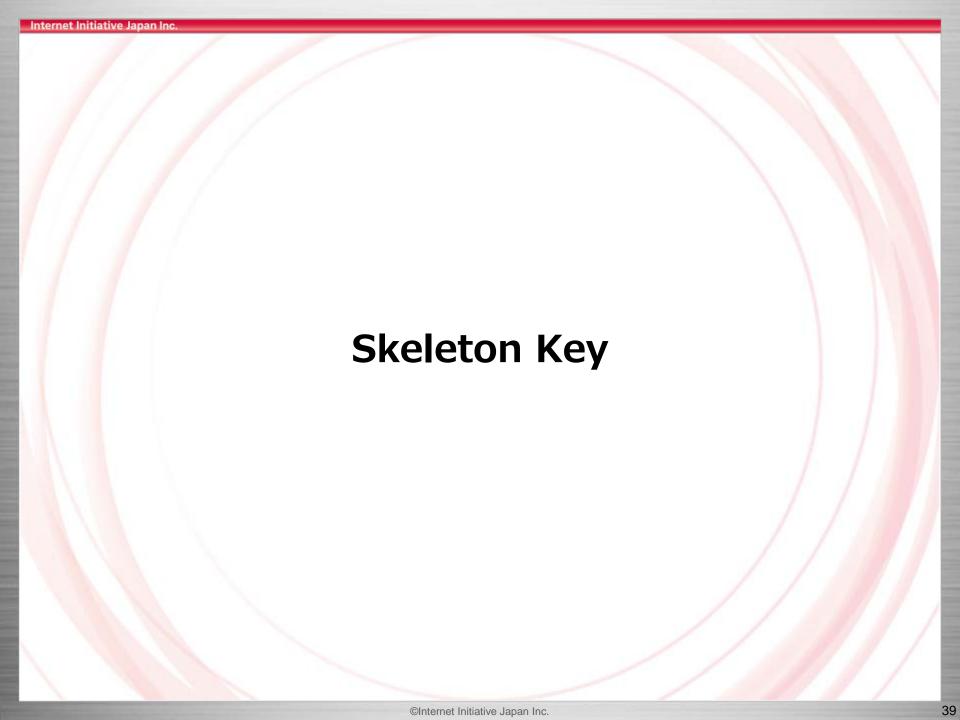
```
mimikatz 2.1.1 x64 (oe.eo)
                                                                                                         X
mimikatz # lsadump::dcsync /user:krbtgt /domain:mylab.local
[DC] 'mylab.local' will be the domain
[DC] 'AD01.mylab.local' will be the DC server
[DC] 'krbtgt' will be the user account
Object RDN
                   : krbtgt
** SAM ACCOUNT **
SAM Username
                   : krbtgt
Account Type
                   : 30000000 ( USER OBJECT )
User Account Control : 00000202 ( ACCOUNTDISABLE NORMAL ACCOUNT )
Account expiration :
Password last change : 10/23/2017 11:37:34 AM
Object Relative ID
Credentials:
 Hash NTLM: 053dfd3a23f0578c6e558d55fd54ad3f
   ntlm- 0: 053dfd3a23f0578c6e558d55fd54ad3f
   lm - 0: f876e010dbd289d74c5ed4099f35da6c
Supplemental Credentials:
 Primary:NTLM-Strong-NTOWF *
   Random Value: 2f2a280cdfd6b6d9352c12407bfbfed7
 Primary: Kerberos-Newer-Keys *
   Default Salt : MYLAB.LOCALkrbtgt
   Default Iterations: 4096
```

DCSync (3)

- 検出方法:以下のログが記録される。
- イベントID: 4662が3回連続で記録される。
- Mimikatzを実行したアカウントが、4662のログの「セキュリティID」と「アカウント名」に入っている。
 - 通常、セキュリティIDはSYSTEMが、アカウント名はコン ピュータアカウント(アカウント名の最後に「\$」が最後に 入る)が入る。
- どのクライアントからリクエストがあったのか記録されていないため、ファイアウォールなどのログと突き合わせる必要がある。

DCSync (4)





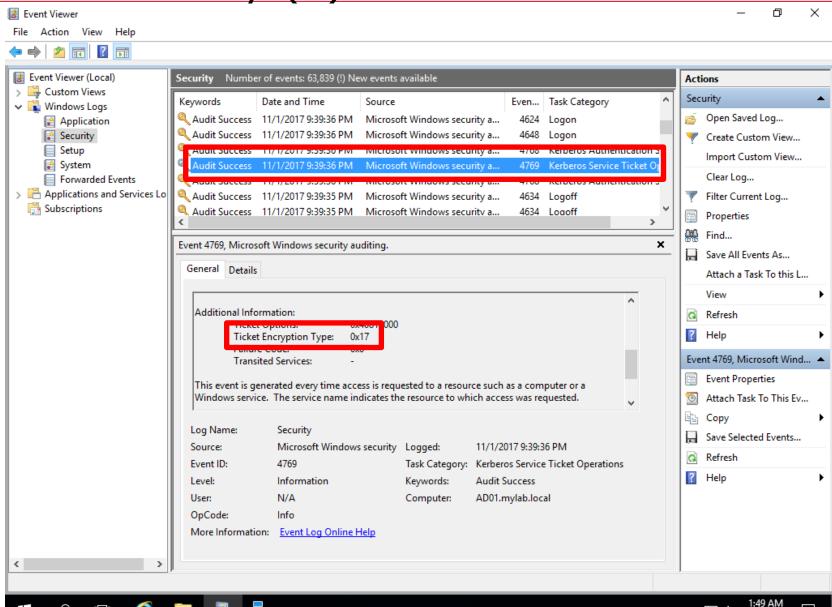
Skeleton Key (1)

- ドメインコントローラのIsass.exeプロセスにパッチを 当てて、全てのアカウントを本来のパスワードとは異な るパスワードでも認証できるようにしてしまう。
- 元々はマルウェアが使用していた技術
 - Skeleton Key Malware Analysis
 - https://www.secureworks.com/research/skeleton-key-malwareanalysis
- メモリパッチなので再起動すると効果はなくなる。

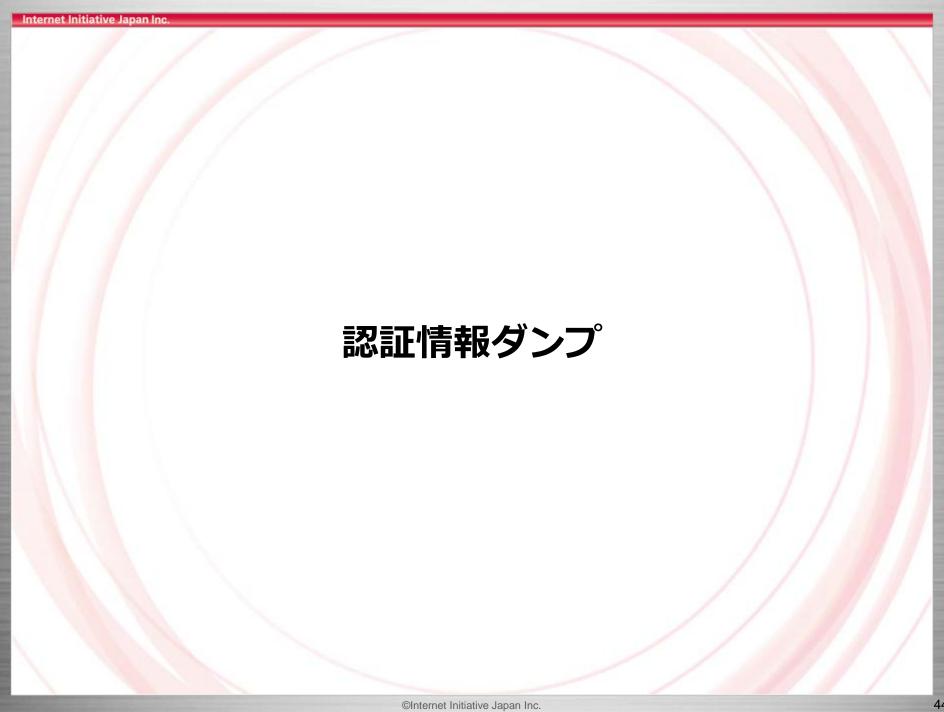
Skeleton Key (2)

- 検出方法:イベントID: 4769の「チケット暗号化の種類」が0x17 (RC4)になっている。
- バックドアパスワードでログオンすると、4769で記録 される暗号化方式が0x17になる。
- 通常、4769の「チケット暗号化の種類」は0x12 (AES256)になっている。
- 暗号の種類は以下を参照。
 - 4768(S, F): A Kerberos authentication ticket (TGT) was requested.
 - https://docs.microsoft.com/en-us/windows/devicesecurity/auditing/event-4768#table-4-kerberosencryption-types

Skeleton Key (3)

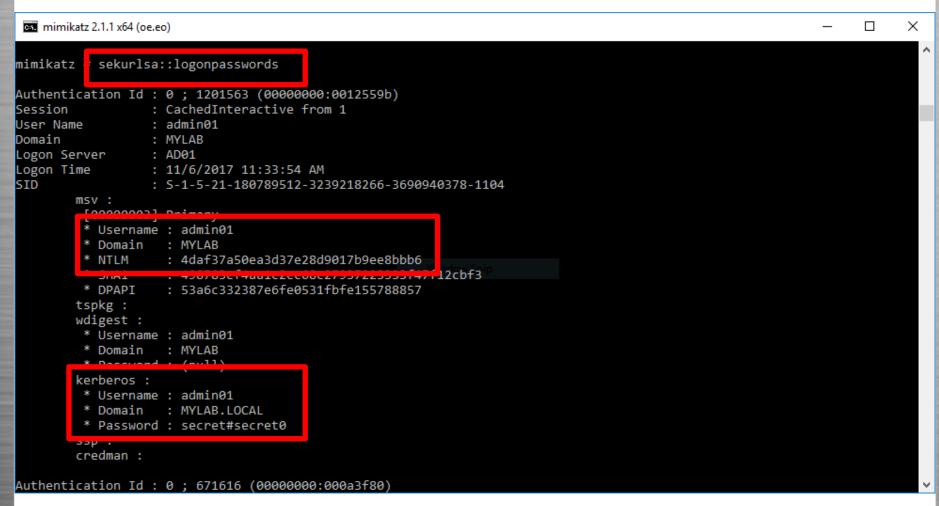


Mimikatzを実行した痕跡の発見方法 (追加設定)



認証情報ダンプ (1)

• Isass.exeプロセスに保持されている認証情報を抽出する。



認証情報ダンプ (2)

- 検出方法:
- ダンプコマンドに対応するイベントログは残らない。
- ダンプコマンド実行にSeDebugPrivilege権限が必要であるため、セキュリティイベントログにイベントID: 4672(特殊なログオン)が記録されるが、これだけでは判断不可能。
- Sysmonを使用してイベントログに残す方法がある。

認証情報ダンプ (3)

- Sysmon: Windowsのシステムアクティビティを記録 するツール
 - プロセス生成・停止・プロセスに対するアクセス
 - ネットワーク接続
 - WMI登録 など
- 認証情報ダンプの時、Mimikatzは特定のアクセスマスクでlsass.exeプロセスにアクセスする。
- SysmonでIsass.exeプロセスにアクセスするプロセスを 記録しておくことでMimikatzを見つけられる可能性があ る。

認証情報ダンプ (4)

- Hunting mimikatz with sysmon: monitoring OpenProcess()
 - https://blog.3or.de/hunting-mimikatz-with-sysmon-monitoring-openprocess.html

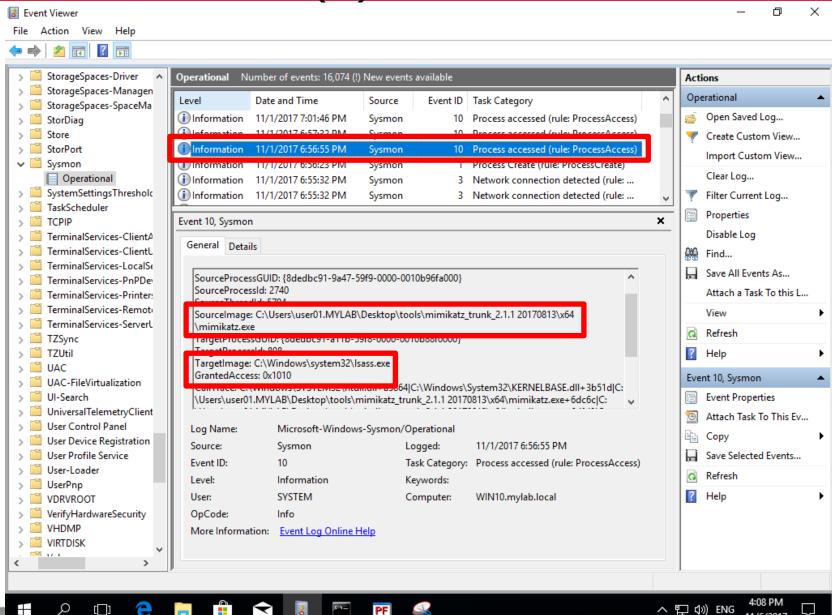


認証情報ダンプ (5)

• Sysmonコンフィグ例

```
<Sysmon schemaversion="3.40">
 <!-- Capture all hashes -->
 <HashAlgorithms>*</HashAlgorithms>
 <EventFiltering>
  <!-- Log all drivers except if the signature -->
  <!-- contains Microsoft or Windows -->
  <DriverLoad onmatch="exclude">
   <Signature condition="contains">microsoft</Signature>
   <Signature condition="contains">windows</Signature>
  </DriverLoad>
  <!-- Do not log process termination -->
  <ProcessTerminate onmatch="include" />
  <!-- Log network connection if the destination port equal 443 -->
  <!-- or 80, and process isn't InternetExplorer -->
  <NetworkConnect onmatch="include">
   <DestinationPort>443</DestinationPort>
   <DestinationPort>80</DestinationPort>
  </NetworkConnect>
  <NetworkConnect onmatch="exclude">
   <Image condition="end with">iexplore.exe</Image>
   <Image condition="end with">MicrosoftEdge.exe</Image>
  </NetworkConnect>
  <ProcessAccess onmatch="include">
   <TargetImage condition="end with">lsass.exe</TargetImage>
  </ProcessAccess>
 </EventFiltering>
</Sysmon>
```

認証情報ダンプ (6)



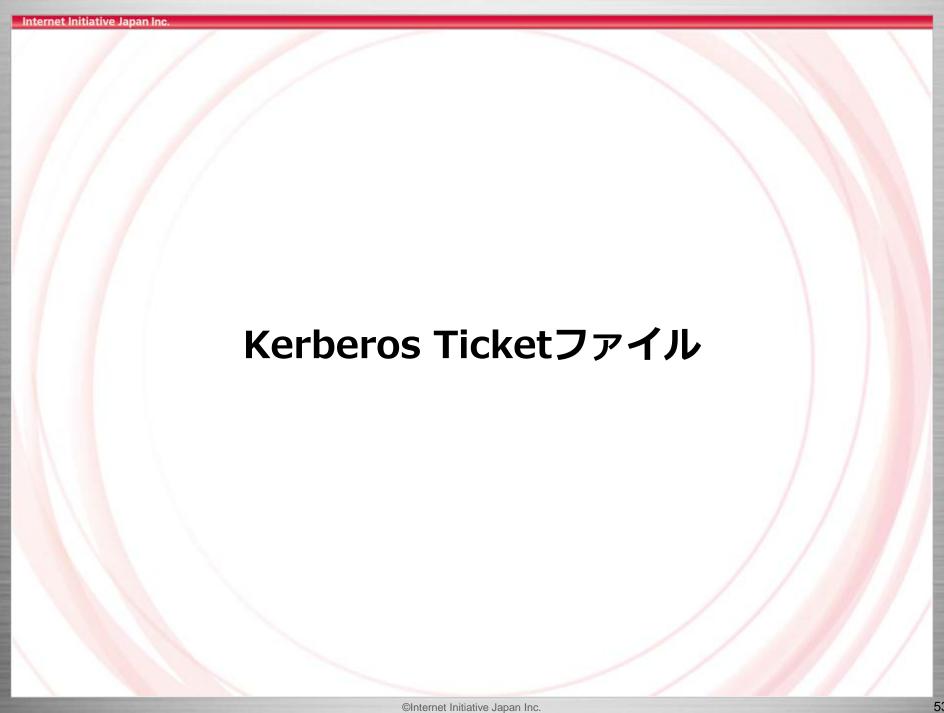
認証情報ダンプ (7)

- svchost.exeやMsMpEng.exe(Windows Defender)など、mimikatz.exe以外のプロセスも同じアクセスマスクでアクセスする場合があるため、確実にMimikatzのみを記録することはできない。
- Sysmonイベントログから、Isass.exeへのアクセスを抽出するPowerShellスクリプト

```
foreach($event in $events){
    $xml = [xml]$event.ToXml()
    $xml.Event.EventData.Data | Format-Table -AutoSize -Wrap
}
```

認証情報ダンプ (8)

```
П
                                                                                                                        ×
 Administrator: Command Prompt
                  #text
Name
UtcTime
                  2017-10-23 11:25:23.362
SourceProcessGUID {8DEDBC91-ACF3-59ED-0000-00103A57A400}
SourceProcessId
                  1716
SourceThreadId
                 C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe
SourceImage
TargetProcessGUID {&DEDBC91-9012-59ED-0000-00108D8B0000}
TargetProcessId
                 C:\Windows\system32\lsass.exe
TargetImage
GrantedAccess
                  0x1010
CallTrace
                  c.\windows\5r5rEm5Z\ncuil.uil+a5864|C:\Windows\System32\KERNELBASE.dll+3b51d|UNKNOWN(0000028EAA77BA3C
                  #text
UtcTime
                  2017-10-23 11:13:45.529
SourceProcessGUID {8DEDBC91-CEC1-59ED-0000-001046C5CB00}
SourceProcessId
                  4744
SourceThreadId
                 C:\Users\user01.MYLAB\Desktop\tools\mimikatz trunk 2.1.1 20170813\x64\mimikatz.exe
SourceImage
TargetProcessGUID (ODEDBOST-SOLZ-SSLD-0000-00100000000)
TargetProcessId
                 C:\Windows\system32\lsass.exe
TargetImage
GrantedAccess
                  C:\windows\System32\ncdil.dil+a5864|C:\Windows\System32\KERNELBASE.dll+3b51d|C:\Users\user01.MYLAB\De
CallTrace
                  sktop\tools\mimikatz trunk 2.1.1
```



Kerberos Ticketファイル (1)

- MimikatzはKerberos Ticketをファイルとして保存する ことができる。
- ファイル保存の操作はイベントログに残らない。
- 認証情報ダンプと同様にSysmonを使用してイベントログに残す方法が使えるが、Mimikatzのアクセスマスクが同じであるため、Sysmonログだけではどちらの機能を使用したのか区別することはできない。
- 通常は存在しないファイルであるため、ファイルが存在 すること自体が(またはその形跡があれば)、Passthe-TicketやGolden Ticket/Silver Ticketが実行された 可能性を示唆している。

Kerberos Ticketファイル (2)

- 検出方法:通常は存在しないKerberos Ticketのファイルを検出する。
- Ticketファイルを検知するためのYaraルール
 - https://blog.didierstevens.com/2016/08/12/mimikatzgolden-ticket-dcsync/

```
rule mimikatz_kirbi_ticket
{
    meta:
        description = "KiRBi ticket for mimikatz"
        author = "Benjamin DELPY (gentilkiwi); Didier Stevens"

    strings:
        $asn1 = { 76 82 ?? ?? 30 82 ?? ?? a0 03 02 01 05 a1 03 02 01 16 }
        $asn1_84 = { 76 84 ?? ?? ?? ?? 30 84 ?? ?? ?? ?? a0 84 00 00 00 03 02 01 05 a1 84 00 00 00 03 02 01 16 }

    condition:
        $asn1 at 0 or $asn1_84 at 0
}
```

イベントログで検知できること

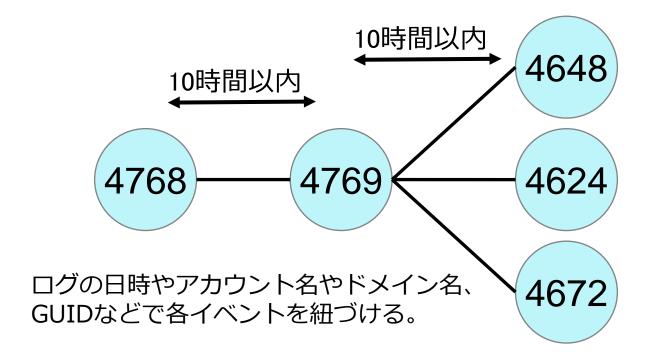
Mimikatz機能	デフォルト設定で 検知可能	追加設定で検知 可能
認証情報ダンプ	×	0
Pass-the-Hash		
Pass-the-Ticket		_
Golden Ticket/Silver Ticket		—
Kerberos Ticketファイル	×	0
DCSync	\circ	_
Skeleton Key	\circ	_

スクリプト化

- イベントビューワを使って手動で検出することも不可能ではないが、Golden TicketやSilver Ticketは複数のイベントを紐づけて読み解く必要があるため、解析はスクリプト化を検討した方が良い。
- イベントログを読み込むためのライブラリ
- python-evtx
 - https://github.com/williballenthin/python-evtx
- libevtx
 - https://github.com/libyal/libevtx

スクリプト実装例 (1)

- python-evtxを利用して、Golden TicketとSilver Ticketの使用を検出するPoCを作成した。
- 基本的な考え方:イベントID: 4768をルートとする Kerberos認証のイベントツリーを作成し、不完全なツ リーを疑わしい認証ログとして出力する。



スクリプト実装例 (2)

• サンプルのセキュリティイベントログ件数

Security イベント数: 37,981

• スクリプトで処理

• スクリプトで処理した後の件数

\$ wc -1 test2.txt 7497 test2.txt

スクリプト実装例 (3)

不要なログを除外(43件まで絞り込み)

```
grep -v 'AD01\$' test2.txt | grep -v 'AD02\$' | grep -v 'WIN10\$'
2017/10/23 03:21:06 AD01.mylab.local EID:4624 Administrator(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-500) MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:19
2017/10/23 03:21:06 AD01.mylab.local EID:4624 Administrator(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-500) MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:19
2017/10/23 03:21:08 AD01.mylab.local EID:4624 Administrator(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-500) MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:19
2017/10/23 03:21:10 AD01.mylab.local EID:4624 Administrator(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-500) MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:19
2017/10/23 03:21:47 AD01.mylab.local EID:4624 Administrator(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-500) MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:19
2017/10/23 03:21:49 AD01.mylab.local EID:4624 Administrator(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-500) MYLAB(MYLAB) Client:192.168.
2017/10/23 06:44:48 AD01.mylab.local EID:4624 admin01(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1104) MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:192.168
2017/10/23 06:44:49 AD01.mylab.local EID:4624 admin01(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1104) MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:192.168
2017/10/23 06:44:49 AD01.mylab.local EID:4624 admin01(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1104) MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:192.168
2017/10/23 06:46:33 AD01.mylab.local EID:4624 user01(S-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1105) MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:192.168.
2017/10/23 06:46:34 AD01.mylab.local EID:4624 user01(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1105) MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:192.168.
2017/10/23 06:46:37 AD01.mylab.local EID:4624 user01(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1105) MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:192.168.
2017/10/23 06:47:54 AD01.mylab.local EID:4624 user01(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1105) MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:192.168.
2017/10/23 06:48:25 AD01.mylab.local EID:4624 user01(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1105) MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:192.168.
2017/10/23 06:48:26 AD01.mylab.local EID:4624 user01(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1105) MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:192.168.
2017/10/23 07:52:45 AD01.mylab.local EID:4769 hogehoge() mylab(mylab.local) Client:::ffff:192.168.230.50 SPN:(unknown)
2017/10/23 07:52:45 AD01.mylab.local EID:4769 hogehoge() mylab(mylab.local) Client:::ffff:192.168.230.50 SPN:(unknown)
        2017/10/23 07:52:45 AD01.mylab.local EID:4672 hogehoge(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-500) MYLAB(MYLAB) Client: SPN:
        2017/10/23 07:52:45 AD01.mylab.local EID:4624 hogehoge(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-500) mylab(mylab.local) Client
2017/10/23 08:36:51 AD01.mylab.local EID:4624 user01(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1105) MYLAB(MYLAB) Client:192.168.230.50
2017/10/23 08:44:26 AD01.mylab.local EID:4624 user01(S-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1105) MYLAB(MYLAB) Client:192.168.230.50
2017/10/23 08:44:26 AD01.mylab.local EID:4624 user01(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1105) MYLAB(MYLAB) Client:192.168.230.50
2017/10/23 11:28:03 AD01.mylab.local EID:4624 admin01(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1104) MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:192.168
2017/10/24 02:08:28 AD01.mylab.local EID:4624 user01(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1105) MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:192.168.
2017/10/24 08:03:18 AD01.mylab.local EID:4624 user01(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1105) MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:192.168.
2017/10/24 11:02:53 AD01.mylab.local EID:4624 admin01(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1104) MYLAB(MYLAB) Client:192.168.230.5
2017/10/24 11:16:04 AD01.mylab.local EID:4624 fuga-cifs(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-500) mylab(mylab.local) Client:192.16
2017/10/24 16:38:19 AD01.mylab.local EID:4624 user01(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1105) MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:192.168.
2017/10/26 09:14:18 AD01.mylab.local EID:4624 user01(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1105) MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:192.168.
2017/10/26 09:14:19 AD01.mylab.local EID:4624 user01(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1105) MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:192.168.
2017/10/27 02:38:18 AD01.mylab.local EID:4624 user01(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1105) MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:192.168.
2017/10/27 02:38:19 AD01.mylab.local EID:4624 user01(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1105) MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:192.168.
2017/10/27 04:34:19 AD01.mylab.local EID:4624 user01(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1105) MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:192.168.
2017/10/27 04:34:19 AD01.mylab.local EID:4624 user01(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1105) MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:192.168.
2017/10/27 06:57:34 AD01.mylab.local EID:4624 user01(S-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1105) MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:192.168.
2017/10/27 08:26:18 AD01.mylab.local EID:4624 user01(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1105) MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:192.168.
2017/10/27 08:26:19 AD01 mylah local ETD:4624 user01(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1105) MVI AR(MVI AR LOCAL) Client:192 168
```

スクリプト実装例 (4)

アカウント名を絞り込み

```
$ grep -v 'AD01\$' test2.txt | grep -v 'AD02\$' | grep -v 'WIN10\$' | cut -d' ' -f5 | sort | unique admin01(S-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1104)
Administrator(S-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-500)
ANONYMOUS
fuga-cifs(S-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-500)
hogehoge()
hogehoge(S-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-500)
user01(S-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-1105)
```

- この中で疑わしいアカウント
 - fuga-cifs
 - hogehoge
 - Administratorと同じSIDを持っている

スクリプト実装例 (5)

疑わしいアカウント名で絞り込み

```
4768がない
$ grep -P "(fuga|hoge)" test2.txt
                                                                     ocal) Client:::ffff:192.168.230.50 SPN:(unkn
2017/10/23 07:52:45 AD01.mylab.local
                                    EID:4769
2017/10/23 07:52:45 AD01.mylab.local
                                              logehoge , my rap (my rap. local) Client:::ffff:192.168.230.50 SPN:(unkn
                                    EID:4769
       2017/10/23 07:52:45 AD01.mylap.rocar EID:4672 hogehoge(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-500) MYLAB
       2017/10/23 07:52:45 AD01.mylab local FID:4624 hogehoge(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-500) mylab
2017/10/24 11:16:04 AD01.mylab.local EID:4624
                                              uga-cifs(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-500) mylab(mylab.
            4768, 4769がない
```

通常のKerberos認証のログ

2017/10/23 03:19:38 AD01.mylab.local EID:4768 admin01(5-1-5-2

2017/10/23 03:19:38 AD01.my

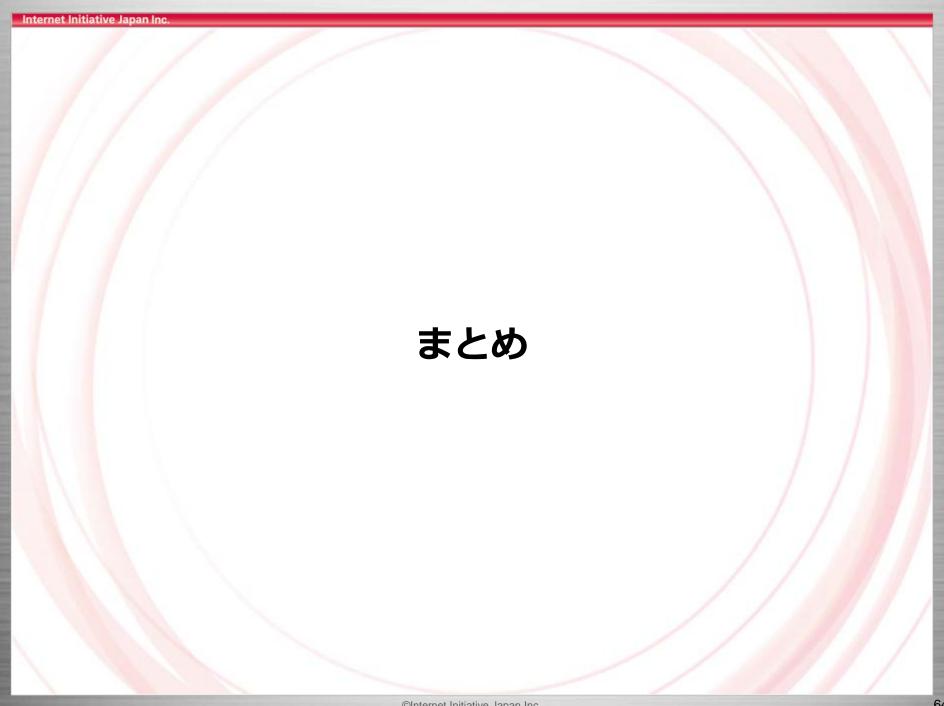
```
4768, 4769, 4624,
'4672が揃っている
                      940378-1104) mylab(mylab)
                      t:::ffff:192.168.230.11 SP
MYLAB(MYLAB.LOCAL) Client:::ffff:192.168.230.11 SP
```

2017/10/23 03:19:38 AD01.mylab.local :ID:4769 a min01() 2017/10/23 03:19:38 AD01.mylab.loca EID:4672 2017/10/23 03:19:38 AD01.mylab.loca EID:4624

admin01(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-110 admin01(5-1-5-21-180789512-3239218266-3690940378-110

• 以上より、hogehogeがGolden Ticketを使用し、fugacifsがSilver Ticketを使用していたことが分かる。

ID:4769 a min01()



まとめ (1)

- 起動の日時や回数はPrefetchやPowerShellのログから 参照できる。
 - ファイル名が変更されるとMimikatzとは判別できない。
- セキュリティイベントログを解析してMimikatzの攻撃を 検出できる。
 - 解析作業効率化のためスクリプト化を検討。
- セキュリティイベントログに残らない攻撃手法は Sysmonでログに記録する。
 - ホスト上で常に動作させる必要がある。
 - 無駄なログを削減するため、設定ファイルのチューニングが 必要。

まとめ (2)

- AppLocker/ソフトウェア制限ポリシー
 - プログラムのホワイトリスト運用も視野に入れる。
- LSA保護モード(Win8.1+)
 - 認証情報ダンプやSkeleton Keyを防ぐことができる。
 - https://msdn.microsoft.com/jajp/library/dn408187(v=ws.11).aspx
- Protected Usersグループ(Win8.1+)
 - http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=298939
- Credential Guard/Remote Credential Guard(Win10)
 - https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/accessprotection/credential-guard/credential-guard
 - https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/accessprotection/remote-credential-guard



ご清聴ありがとうございました

Ongoing Innovation

本書には、株式会社インターネットイニシアティブに権利の帰属する秘密情報が含まれています。本書の著作権は、当社に帰属し、日本の著作権法及び国際条約により保護されており、著作権者の事前の書面による許諾がなければ、複製・翻案・公衆送信等できません。IIJ、Internet Initiative Japan は、株式会社インターネットイニシアティブの商標または登録商標です。その他、本書に掲載されている商品名、会社名等は各会社の商号、商標または登録商標です。本文中では™、®マークは表示しておりません。©Internet Initiative Japan Inc. All rights reserved. 本サービスの仕様、及び本書に記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。